

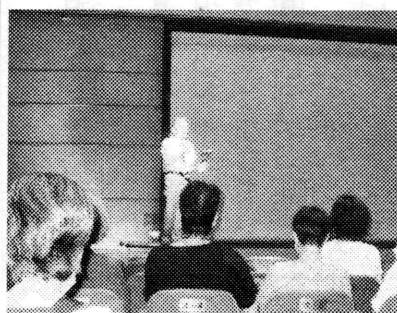
神奈川版
2022年10月号
月間「不屈」
No.580付録
編集兼発行人
宗形孝至

治安維持法犠牲者 国家賠償要求同盟
神奈川県本部
〒221-0823

神奈川県横浜市神奈川区二つ谷町2-9
TEL/FAX 045-314-1766
E-mail chian.kanagawa@spice.ocn.ne.jp

映画「伊藤千代子の生涯」上映大成功… 9月17日サンハートホール

横浜西部支部 小澤睦夫（上映実行委員会事務局長）



好評だった小澤さんの開会あいさつ

沖縄県知事選挙でオール勝しました。その一週間後に上映された映画「わが青春つきるともー伊藤千代子の生涯ー」は沖縄の勝利も後押ししたかのように鑑賞希望者がしり上がりに増え、上映当日は午前、午後合わせて400人を超える大盛況になりました。

国賠同盟横浜西部支部が呼びかけ、保土ヶ谷区革新懇、旭区9条の会、新婦人瀬谷支部が実行委員会呼びかけ団体となつてスタートしたのが5月29日でした。参議院選挙を経て、本格



会場いっぱいの観客

的な取り組をはじめました。実行委員会呼びかけ団体が中心になって年金者組合、新婦人支部、国民救援会、民医連友の会、土建、建設、地域労連など幅広い団体に協力を要請していきました。日本共産党の各後援会もチケット普及をはじめ、「赤旗」読者への宣伝など協力してもらいました。

9月17日の午前に参加者が集中しすぎて入場できない人が出るのではないかと心配も、皆さんのご協力で事なきを得ましたが、やはり午前、午後の前売り券では取り組むべきでした。

スタート時点では3行政区の異なる団体の実行委員会で協力がうまくいくのか、どのような運営体制で進められるのか、初めて顔を合わせ

お帰り前に「感想アンケート」とカンパをお願いしましたが、たくさんの方に協力が寄せられました。（感想文は別掲載）

参加者の感想文には「治安維持法同盟の活動に関心を持つた」と記入して下さった方もおられます。国賠同盟西部支部ではこうした参加者に働きかけ、同盟会員を増やしていきたいと思います。

小澤事務局長の開会あいさつ、(抜粋)

(前文略) 旭区のある施設で今年8月20日に108歳の生涯を閉じた水谷安子さんのことをお話させていただきます。

水谷安子さんは治安維持法犠牲者で最高齢者でした。1933年富山女子高等師範学校で学んでいるとき、マルクス主義の学習をしたことで逮捕され、卒業まじかで退学になりました。合計3度の逮捕はいずれも理不尽な理由でした。「国が謝るまで死ねない」と健康管理に努める傍ら、お亡くなりになる寸前まで毎日の「しんぶん赤旗」をお読みになっていました。

私は不屈の大先輩に心からの敬意を表し、本日上映する映画「伊藤千代子の生涯」をささげたいと思います。(後略)

A 感想文

「伊藤千代子」を知つて

いましたか

- * 今回の上映を期に調べた。
- * 名前ぐらいは知つていた。
- * 学習会に参加して知つていた。
- * 20年くらい前に諏訪のお墓に行きましたが、詳しくは知らなかつた。
- ほとんどの人が、知らなかつたと記入していました。

B 映画の感想を

お聞かせください。

* 今年、日本共産党は100

改めて歴史を感じます。このような映画を観ることができるのも千代子らのような先輩の努力の賜と思っています。

* こんなに多くの女性が強く生きていたことに改めて知りました。国賠同盟の活動に関心を持つた。

* 私は変わらない！私らしく生きる！不屈に生き抜いた千代子の生涯に感動しました。

* パターン化されたシナリオのように感心してしまった。とはいえ自分の信じる感情、思うことを表明できる今はまだよいのですね！で終わってしまうそう。

* とても私にはできないだろうと思ひます。でもすごい人ですね。

* 日本共産党100周年の記念すべき年に、この映画を鑑賞出来て、極めて入党した初心を思い出します。帰つて志位委員長の講演を聞きました。きっと伊藤千代子さ

んの志を重ねて学べると思います。上映ありがとうございます。

* いい映画を観ることができて本当に良かった。こんなに心にひびく映画を何年ぶりでしようか。自分の生き方を考えさせられました。もう時期70歳。でも今からでも間に合う！自分の気持ちに誠実に生きていきたいです。



川崎支部より、お二人の追悼文が寄せられました

よく映画を語つたね、植田さん

国賠同盟川崎支部長 塩田儀夫

川崎支部では、5月の和田庸子さんに続き、8月には植田泰治さんも失った。痛手である。植田さんは川崎でのセツルメント活動を経て、東映に入社。全東映労連委員長を務めるなど、労働組合運動の先頭にも立つてきました。山本薩夫監督「にっぽん

泥棒物語」の助監督などを務め、ドキュメンタリ映画「時代（とき）を擊て・多喜二」（2006年）国賀同盟創立50周年記念映画「種まく人びと」（2018年）のプロデューサで活躍。現在制作中のドキュメンタリ映画「レッド・バージ（仮題）」に

大往生 108歳 水谷安子さん

県本部副会長 山崎雅子

8月20日（土）水谷安子さんが逝去されました。

あと26日で109歳になるところでした。富山女子師範学校の学生であった時、憧れの女性教師の主宰する科学的社会主义の読書会に参加したことで逮捕され、卒業間近であつたのに退学処分を受けて教師の道を断たれました。

その後も姉が「この戦争は天皇の責任」と立ち話をしていました。それを近所の人々に密告され、妹も夫も逮捕されるなど三度の投獄・拷問によって流産し子どもを産めない体にされました。治安維持法が悪法であり、二度としないと反省し、謝るまで死ねない、と健康管理に励んで来られました。犠牲者の最高齢であつた水谷安子さんが、おられなくなることは残念です。ご冥福をお祈りします。

も深く関わっていた。
県本部常任理事会後、帰宅途中に交通事故に合い、約1年後の8月29日、86歳で逝去した。

2008年国賀同盟川崎支部

も大量生産していた。だから自然と目に触れると言い訳をいうつもりはないが、それらもよく観た。一方、ヤクザ映画も花盛り。「紺牡丹博徒」「網走番外地」「シリーズなどや「トラック野郎」「シリーズ、エログロ路線の合間に」「飢餓海峡」「大奥○秘物語」「新幹線大爆破」など。

映画の話で盛り上がった勢いで同盟の会員になり、そして今、支部長になつた。

もともと山本薩夫の映画が好きで、しかも「にっぽん泥棒物語」では助監督をやつたといふ植田さんではないか。話が合わない訳がない。当時の東映のハチヤメチヤな撮影裏話や、「にっぽん泥棒物語」のよもやま話、植田さんがその才能を早くから見出していたらしい（？）深作欣二監督のこと、あるいは高畑勲や宮崎駿が所属していた東映動画（現東映アニメーション）の傑作「太陽の王子ホルスの大冒険」についてなど、話は尽きない。

そんな映画の数々についても植田さんとはよく話したものだ。今は休会中であるが、我が川崎支部企画の映画観賞会「いつぶく座」でも毎回、植田さんの造詣の深い解説を前振りに、数回開いてきた。現場の助監督、あるいはプロデューサならではの専門的な解説もさることながら、文化面から切り込んだ当時の政治的背景も折り込んで、ユニークな映画サロンだったと自負している。

料理も得意で支部の忘年会などでは、必ずお手製の一品を持参してきた。様々な病気で数度の入院を繰り返しながら、不死

私も60～70年代の東映作品はよく見た。その当時の東映は岡田茂体制の下、題名を言うのも

（4面に続く）

